

海辺の花々

海に囲まれた房総半島ならではの「海浜植物」。季節を教えてくれる「海の花」です。



ハマビルガオ
花期 5月～(初夏、夏)
代表的な海浜植物の一つ。海岸の砂地に生えるつる性の多年草。砂のなかに白色の地下茎を長くのびてふえる。茎は砂の上をはい、巻きついたりして広がる。



ハマダイコン
シーズン 4～6月(初夏)
海岸の砂地に生える1、2年草。根はあまり太くならず、固くて食用にはならない。花は淡紅紫色。ハマダイコンはダイコンが野生化したものと言われる。



スカシユリ
花期 6～8月
花被片(花びら)の基部が細く、隙間があり花の内部がすけて見えることから。海岸近くの砂地や岩場に生える多年草。大きな花が上向きに咲く。



ハマコウ(浜木綿)
シーズン 5月～9月
熱帯から亜熱帯にかけて分布するヒガンバナ科の常緑多年草。年間平均気温15度以上に分布するといわれ、夕方から咲く白い花が初夏から夏にかけて浜辺を彩る。



イソギク
シーズン 10～12月
千葉県の犬吠埼から静岡県のお前崎までの太平洋海岸に生える多年草。古くから栽培され、花が小さいので、菊人形の着物に良く使われる。



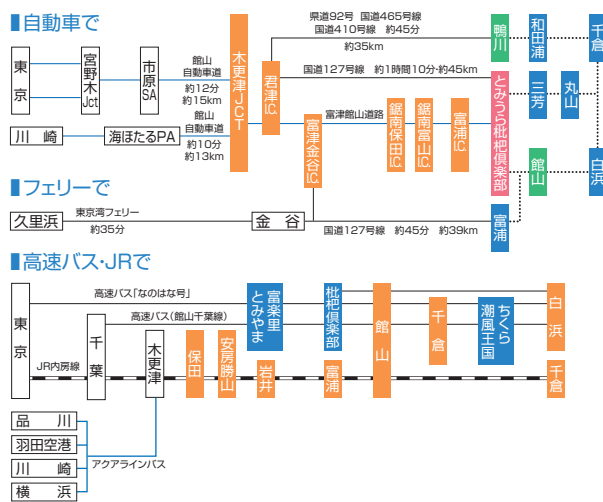
ハマポウフウ
シーズン 6～7月
中国で薬用にする防風と根の効用が似ていて、海岸に生えることによる。防風は「風邪を防ぐ」という意味で、風邪薬として用いる。



ハマゴウ
シーズン 7月～9月
青紫色花を咲かせ、果実は球形。花・枝葉に芳香があり古く「浜香」と呼ばれたといわれています。



みやご草
シーズン 6月～8月
鮮やかな黄色い花が愛らしい。海岸の砂地に生える。



南房総市内道の駅連絡会

南房総市観光プロモーション課
TEL.0470-33-1091



南房総の情報満載!「南房総いいとこどり」
<http://www.mboso-etoko.jp>

南房総 花めぐり

花々に囲まれて。



南房総市

南房総 花めぐり。

南房総・花栽培のはじまり

今こそ盛んな南房総の花栽培。始まりは、和田町で生まれ育った薬剤師・間宮七郎平の花づくりです。大正時代に安房地方で初めて花づくりに成功した間宮氏は、半農半漁の生活を営んでいた和田町民の生活を大いに助けたと伝えられています。

そのころの和田町では、零細農家が多く、生活は楽ではありませんでした。農耕の合間に男は木挽きや白土掘り、女は背負い子でたきぎ運びや、きんちゃく網(今のあぐり網)の手伝いをしていました。

七郎平氏は薬草や花の種を仕入れ、栽培を始めました。大正九年、寒菊を栽培し、鉄道が開通していなかったため、北条駅まで荷車で運びました。

七郎平氏は工夫をこらし、寒菊にいろいろな花をそえて「花金」(問屋)へ出荷しました。すると1俵平均4円になったのです。木挽の日当が50銭、女の人の日当が25銭というころでした。

親から反対され村人から冷たくされながら、一念を貫いてきて七郎平氏は遂に成功したのです。本入の喜びはもちろん、村人たちの注目するところとなり、一人二人と花き栽培を始める人が増えてきました。

これが、南房総の花栽培のはじまりだったのです。

花、花、花…、南房総の春。

一般的な地域の花のシーズンは5月頃。いっぽう、ここ南房総では1月からは花が畑を埋め尽くしています。房総半島の南端は、暖流・黒潮の影響を受け温かい(年平均気温16度)無霜地帯。冬季の温暖な気候を利用して、花の栽培が行われているので、どこよりも早くお花を楽しむことができます。南房総に咲く代表的な春の花を紹介いたします。

ストック
紫羅欄花 (あらせいとう)
アブラナ科
華やかな見栄えと、香りの良さで人気のストック。茎の上部で3～5本分枝して花が咲くスプレータイプのものは、ボリューム感もあり、1、2本生けるだけでも絵になります。「ストック」は英語名で「幹」や「茎」を意味し、しっかりとした茎を持つことに由来しています。

花言葉 豊かな愛 幸福

菜の花
アブラナ科
春のフラワールインを彩る花で、千葉県の名産の花です。菜の花とは、春に花を賞美する菜の意味で、アブラナ属全体の総称。観賞用のものと、食用のものがあります。観賞用は切り花に向くようあまり分枝しない、食用は次々に花蕾が収穫できるようよく分枝する、という特徴があります。

花言葉 快活 小さな幸せ

キンギョソウ
ゴマノハグサ科
花の形が金魚を連想させることからこの名がつけました。キンギョソウのイメージは各国で異なるようで、英語名「スナップドラゴン」は「龍の頭」、ドイツ名は「ライオンの口」、フランス名は「子牛の鼻」を意味しているそう。南房総はキンギョソウの産地として全国的に有名な地域の一つ。

花言葉 清純な心 予知

ポピー
雛芥子 (ひなげし)、虞美人草 (ぐびじんそう)
ケシ科
アンパルについている実は、ポピーの仲間の種(ケシの実)。
中国の歴史的人物、項羽の妻・虞姫が死んでこの花になったとされることから「虞美人草」とも呼ばれています。

花言葉 いたわり 陽気で優しい

キンセンカ
カレンデュラ、ポットマリーゴールド
キク科
最近、食用(エディブルフラワー)としての人気が高まっているキンセンカ。和名の「金盞花」は花を金色の杯に見立てて付けられた名前です。「カレンデュラ」は「1ヶ月」という意味で、花期が長く、1ヶ月も咲き続けるように見えることから。

花言葉 慈愛 別れの悲しみ

ヤグルマソウ
ヤグルマギク、コーンフラワー
キク科
花の形が鯉のぼりのでっぺんについている「矢車」に似ていることからこの名がつけました。花は乾燥しても色鮮やかなので、生花を楽しんだ後はドライフラワーにしても楽しめます。

花言葉 感謝 幸福 繊細

花爛漫の南房総。

一年を通じて、花に出逢えるまち。

早春の彩り



千倉・白浜の 露地花畑

花摘みのメッカ。太平洋を望み、1月～3月頃には多くの花摘み客でたいへん賑わうエリア。キンギョソウ、ストック、ポピーなど自分の手で摘み取り両手いっぱい抱えて嬉しい「花摘み」は4月頃まで楽しめます。2月～3月の間は露地花畑をライトアップしているゾーンもあり、冬の風物詩として定着してきました。

和田浦の 花畑



この春は12月から始まり。まず菜の花があたり一面に黄色の絨氈を織りあげ、キンセンカ・矢車草・カーネーション・ストック・アイリスなどさまざまな花が暖かい風景をつくります。花摘みのできる花畑もあります。

花花スポット



道の駅 ローズマリー公園
中世ヨーロッパ式庭園で、ローズマリーをはじめ各種ハーブや季節の花が年間を通して咲いています。中世のイギリス様式の建物が並ぶ「シェイクスピア・カントリー・パーク」は劇作家・ウィリアム・シェイクスピアにちなんだ生家などが復元されたテーマパーク。ふれあい交流センターでは、花摘みやいちご狩りなども楽しめます。
南房総市白子1501
☎0470-46-2882



道の駅とみうら・枇杷倶楽部
千葉県初の「道の駅」枇杷倶楽部は、旅の情報・交流の拠点であり、立ち寄りスポット。特産の「枇杷(びわ)」グッズなどがショップやカフェに。ポピーや菜の花、ストック、金魚草などの花や、大粒のびわ、イチゴ等々、富浦が誇る産物の摘み取りのご案内もしています。
南房総市富浦町青木123-1
☎0470-33-4611



道の駅おおつの里 花倶楽部
四季折々の美しい花摘みを楽しめます。総面積4,000坪の敷地内に、ポピーや金魚草、極楽鳥花(ストリチア)など、種類豊富な美しい花々を心ゆくまで鑑賞し、ほぼ一年を通じて花摘みができるスポットです。
南房総市富浦町大津320
☎0470-33-4616



道の駅 富楽里とみやま
9月の後半には、富楽里の目の前の田圃1.1haにコスモス畑が広がります。コスモスは摘み取りもできます。料金も20本で100円!とリーズナブル。山々に囲まれた風光明媚な景観と共に秋の訪れを感じることができます。

南房総花カレンダー

南房総地域の主な花々の開花時期。

名称	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
アイランドポピー												
アイリス												
アネモネ												
カーネーション												
カラー												
ガーベラ												
キンギョソウ												
キンセンカ												
コスモス												
スターチス												
ストック												
ストリチア												
トルコキキョウ												
菜の花												
日本水仙												
ヒマワリ												
フリージア												
ヤグルマソウ												
ローズマリー												

※年によって多少異なる場合があります。

南房総桜前線



抱湖園

房総の花卉栽培を始めた間宮七郎平は和田地区でその花の栽培を始めました。花づくりに成功した間宮氏は、次に山を切り開き、花木を植えることを考えつき自ら鋤を持って花園の裏山の腰の周りを開墾しました。これが「抱湖園」です。現在、「抱湖園」は、池と花の公園として親しまれ、特に1月に咲く寒桜(元朝桜)が有名です。

大房岬

岬に突き出た自然の宝庫「大房岬」(たいぶさみさき)。磯あそびやキャンプなど家族で遊べるスポットも桜の時期には園内にあるオアシマザクラ、ソメイヨシノなど約250本の桜が色づき、お花見スポットのメッカとなります。

酪農のさと

丸山地区の山間にある「日本酪農発祥の地」の酪農のさとでは、およそ150本のソメイヨシノが4月になると咲き乱れます。珍しい白牛が飼育されるのどかな牧場は、子供たちに人気のスポットです。

あじさいに、 6月に逢う...

国道128号線からすぐの丸山地区「日蓮寺」。房州のあじさい寺と呼ばれ、境内にあるおよそ2万株のあじさいが6月中旬には一斉に色づきます。



早春を告げる色とりどりの露地花畑。南房総の代名詞とも言える春の風景です。しかし、南房総の花は、早春の花畑だけではありません。太平洋と東京湾に面した海辺に咲く海浜植物は季節を教えてください。生産地としての顔、秋のコスモスなど季節の顔...、一年中花に出逢えるまち、それが南房総なのです。